岸宏一氏を偲んで

特集 正直で誠実であれ

10月16日（月）、元金山町議会議員、元金山町長、前参議院議員の岸宏一氏が77歳で急逝されました。深い悲しみに包まれる中、11月4日（土）には、岸家・金山町・山形県農業会議との合同葬儀告別式が執り行われました。会場は、岸氏が大学を卒業後、4か月間教鞭を執られた金山中学校。この日、町民の皆さんをはじめ、ご盟友やご友人、県内外の政財界などから1400名の方々が参列され、岸氏の功績と人柄を偲ばれました。

柴田清正町議会議長の開会の辞に続き、岸三郎兵衛葬儀委員長があいさつ。「先生は誰に対しても分け隔てなく接してこられ、町長、参議院議員となられてもその姿勢が変わることはなかった。私も心のこもったお言葉を何度となくかけていただいた」と振り返りながら悼みました。

吉村県知事は、弔辞で「岸先生は兄ほどの年の差だけれど、その慈愛あふれるまなざしに接した時、父親の懐に抱かれたような安らぎを覚えた」と言葉を詰まらせながら追憶。「多くの人から慕われた先生。これからは天空から県民の皆さんを見守ってほしい」と語りかけました。

町職員時代から岸氏を慕ってきたという鈴木町長。「全国初の公文書公開条例の制定はじめ、街並みづくり百年運動の提唱、街並み景観条例の制定など、先生は小さな町の大きな取り組みとして、わが町が全国に誇れる大切な宝物をたくさん遺してくださった」と岸氏の功績をたたえました。続けて「政治生活50年の生涯を、町議会議員として、町長として、そして国会議員として、常に『誠実であれ正直であれ』という信条・理念をお持ちになられた先生。先生が金山町に遺していただいた多大なご功績を心に刻み、今後の町政発展に尽くしていきたい」と誓いの言葉を述べ、決意を堅くしていました。

ご盟友を含め、4名が弔辞を捧げられた後、多くの弔電を紹介。続けて親族や代表者が焼香されました。喪主を務めたご長男の倫一郎さんは、岸氏が肺がんや腸閉塞を患っていたことや、参議院議員時代に4度の大病を経験していたことを明かし、「父はまさに政治も自分の体のことも、闘い尽くして逝った。最期まで闘った立派な父だった」と語り、参列者の皆さんに謝辞を述べました。

ご導師の皆様が退場されると、岸氏ゆかりのブルガリア人バイオリニストであるヴァスコ・ヴァッシレフさんが献奏。荘厳なバイオリンの音色が会場中に響き渡り、しめやかな雰囲気に包まれました。葬儀が終わると、参列者全員がひとりずつ岸氏の遺影に歩み寄り、祈りをささげながら献花。1400名が岸氏との思い出を回想し、最期の別れを惜しんでいました。

岸　宏一氏の経歴

昭和15年	6月3日生まれ
39年	早稲田大学第一政治経済学部卒業
	金山中学校助教諭
40年	金山町教育委員会事務嘱託
42年	金山町議会議員当選
	金山町監査委員
46年	金山町長当選（平成10年4月まで連続7期）
57年	全国に先駆けて公文書公開条例を制定
59年	町並みづくり百年運動を提唱
61年	町並み景観条例を制定
平成 8年	山形県農業会議会長就任
9年	全国町村会常任理事
	地方自治法施行50周年記念「自治大臣表彰」受賞
10年	参議院議員当選（平成28年7月まで連続3期）
12年	参議院農林水産委員会理事
13年	参議院災害対策特別委員会理事
	参議院行政監視委員会理事
14年	総務大臣政務官就任
16年	参議院厚生労働委員長就任
18年	国土開発幹線自動車道建設会議委員
	参議院厚生労働委員会理事
	参議院少子高齢社会に関する調査会理事
	参議院議員運営委員会理事
19年	厚生労働副大臣就任
25年	参議院政府開発援助等に関する特別委員長就任
26年	参議院予算委員会委員長就任
28年	参議院議員退任
	ブルガリア共和国マダラの騎士の勲章一等受賞
	金山町政策顧問就任
29年	従三位・旭日重光章を受ける

就任あいさつ

町長　岸　宏一

町民の皆さん

私はこのたび金山町のあたらしい町長にえらばれました。

ご存知のとおり、前町長の任期が昨年の暮れに満了しました。ながらく、お気を申し上げます。

今後四年間の町政執行の任に就くにあたり皆様に一言ご挨拶申し上げたい存じます。

お願い申し上げたいと思います。

私は、まず第一に、地方自治の正しいあり方の実現に最大の努力を傾けたい。町民の意識を高くするには、町の良いところも悪いところもみんなで知ることが重要だと考えた。そのためには町がオープンでなければいけない。昭和57年に情報公開条例を制定したことで、その集大成ができた。そもそも金山は小さな町。隠すことなんて何もないのだ。

国政も経験して感じることは、やはり地方がしっかり生きていかないといけないということ。みんな中央に集まって、農業が無くなってしまったら困る。そのためにも今自分たちが直面している問題を、しっかり理解するということが大切だ。今後、もし可能なら故郷のためになるようなことをやりたいと思っている。

今まで支えてくれた山形県それから金山町の皆さんに感謝を申し上げる。いつも私を信じて、ついてきていただいて、共に行動してくれた皆さんにただただ感謝しかない。だからこそ50年間、幸せに政治生活をまっとうすることができた。本当にありがとう。

昭和46年4月30日に就任以来、7期、27年間にわたって金山町長を務めるとともに、最上郡の町村会長として、さらには山形県の町村会長として地方自治のリーダー役を担ってきた岸宏一町長が、4月20日、退職の日をむかえました。

当日は午後4時30分から役場町民ホールで職員に対する最後の訓示が行われ、長い在職期間の思い出や、町民のみなさんに対する感謝の気持ちなどを語りました。

その後、職員から贈られた花束を手に退庁。思いがけなく、庁舎正面口には多くの町民のみなさんが拍手で待ち受け、岸町長はひときわ感慨深そうに役場庁舎を後にしました。

▼1-2_27年にわたり金山町長を務めた岸宏一氏。町長就任時並びに退任時のあいさつ（広報かねやまから抜粋）▼3-4_現在の役場庁舎竣工時。▼5_全国に先駆けて制定した「公文書公開条例」。昭和57年3月公文書公開条例議決議会で審議された。▼6_昭和55年に着工し平成5年に完成した神室ダム。この年10月29日に秋晴れの中、竣工式が行われた。▼7-10_岸宏一氏が町長時代、一貫して主張した「町民の積極的な町政への参加」。町長が自由に町民の皆さんと話し合いができるようにと、町長室を開放したほか、自ら外に出て積極的に交流された。

岸宏一先生、ありがとうございました。

最後に、平成28年6月、岸氏が参議院議員をご退任される前に、残された言葉を紹介させていただきます。

50年の政治生活を振り返り、応援してくれた方々に感謝の気持ちでいっぱいだ。政治の世界を志すきっかけを振り返ってみると、学生時代に非常に印象に残っていることがある。ロバート・ケネディが早稲田大学に来たときに握手をした。非常に思い出として残っているが、生意気にもいつかは町長をやってやろうという気持ちが芽生えた。

昭和46年に町長になったわけだが、当時山形県内でも、「開かれた行政」という言葉があまりなかった。まずは町長室の開放というキャッチフレーズにして、町の広報活動に力を入れた。私は町政というのはその地域に住む住民の意識レベルに比例するという思いを持っていた。町民の意識を高くするには、町の良いところも悪いところもみんなで知ることが重要だと考えた。そのためには町がオープンでなければいけない。昭和57年に情報公開条例を制定したことで、その集大成ができた。そもそも金山は小さな町。隠すことなんて何もないのだ。

国政も経験して感じることは、やはり地方がしっかり生きていかないといけないということ。みんな中央に集まって、農業が無くなってしまったら困る。そのためにも今自分たちが直面している問題を、しっかり理解するということが大切だ。今後、もし可能なら故郷のためになるようなことをやりたいと思っている。

今まで支えてくれた山形県それから金山町の皆さんに感謝を申し上げる。いつも私を信じて、ついてきていただいて、共に行動してくれた皆さんにただただ感謝しかない。だからこそ50年間、幸せに政治生活をまっとうすることができた。本当にありがとう。